

(様式)府立松原高等学校「学校運営協議会」報告書(第3回)

日時	令和6年2月3日(土) 14:00-16:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	(福)バオバブ福祉会理事	山田 達也	校長
	菊地 栄治	早稲田大学教授	麦田 伸一	教頭
	野崎 龍介	松原市立松原第三中学校長	中川 泰輔	首席・2学年代表
	坂井 啓祐	四天王寺大学教授	伊藤 あゆ	首席
	森岡 次郎	大阪公立大学准教授	眞杉 凌	人権教育主担
	岡山 美保子	本校PTA会長	佐藤 智美	人権教育主担
			田ノ上 優光	人権教育主担
	教職員等			
	沖 良輔、菊地 真祥、岡垣 有香、辻林 裕香、松本 優里 平野 智之(追手門学院大学教授)			
主なテーマ	今年度の振り返りと次年度の方針と計画			
協議内容 の概略	<p>1. 学校長より 学校教育自己診断アンケート結果、学校経営計画および学校評価 授業改善の取り組みが進んでいる。学校生活の充実に関する肯定回答も増加。課題は、カリキュラムマネジメントと評価。</p> <p>2. ダイアログ「48期生にきく“松高する”」 ・松高は安心して自己開示できる場。放課後、中庭、食堂。いろいろな場所、タイミングで、自分のペースで。 ・松高した瞬間—「想いを発信する」ことを自分のものにできたとき。自主的に自分の想いを誰かに発信し、想いを返してもらった。 —学校の外でもためらいなく、困っている人に声をかけられたとき。 —体育祭が終わった時。4人で230人をみた。自立支援生も安全にできているか、後輩は来ているか、同期のけんかの仲裁もあった。「松高生した」のは、みんながいたから。 ・誰かのことを考えること、仲間と協力したり自分で自分を助ける手段を身に着けること、人権学習の根にある。これをどう伝えるのか考えていきたい。</p> <p>3. 協議委員会からのご意見、提言</p>			
提言内容・ 改善方策	<p>・現実が厳しいこともあるが、乗り越える方法があるとするなら、人とつながること。まずは仲間とつながること、それができるか。ちゃんと弱音を出して受け止める仲間と出会ってきた。くじける場合は、鎧が脱げないとき。</p> <p>・ケアも含めた教育であるということ。外に出てがっかりすることにへこたれずに、一緒に考えていくことが信念として落ちている。松高する=人間する。</p> <p>・生活と結びついている学び、GOLDEN 理論が2年でよく工夫されたのでは。生徒との関係の中で学びが作られる。</p> <p>・神社の節分を見ていると、地域の雰囲気が変わってきた。高校に見本になる先輩がいたら、地域に打って出ていく。就職したこの3年後も追跡してみても。</p>			